

酒田市都市計画マスタープラン 骨子(案)

【概要抜粋版】

1. 策定の背景
2. 計画の概要
3. 酒田市の課題
4. 酒田市都市計画マスタープランの骨子案

平成30年9月
酒田市



1. 策定の背景

(1) 都市計画マスタープランとは

- 都市計画マスタープランは、**酒田市が目指す将来都市像を示す**とともに、その実現に向けた**都市づくりの基本的な方針を定める**計画です。
- 本市の現在の都市計画マスタープランは、旧酒田市・旧八幡町それぞれで平成14年3月に策定したものです。**策定後16年が経過**する中で、1市3町の合併や、東日本大震災の発生、人口減少や少子高齢化の加速など**社会状況は大きく変化**しており、**計画の見直しが必要**となっています。

【都市計画マスタープランの役割】

① 酒田市が目指すべき将来都市像を示す

市総合計画なども踏まえつつ、どんな都市・都市構造を目指すのかについて、市民や関係者等の理解を深めることを目指します。

そのために、市の上位計画や県が定める都市計画の方針に即するとともに、関連する他分野の計画とも調整・連携しつつ、酒田市の将来のあるべき姿を示していきます。

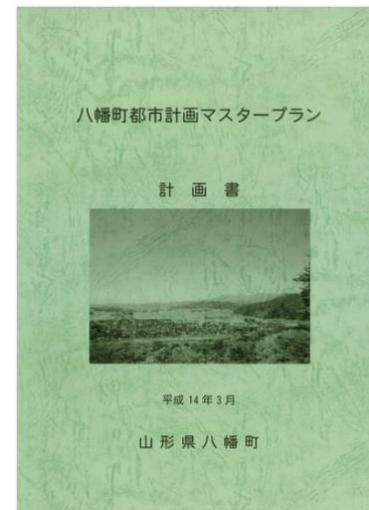
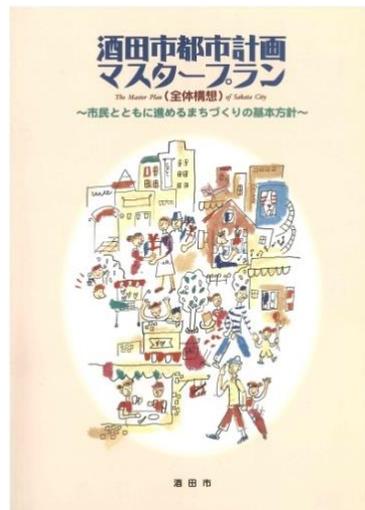
② 都市づくりの基本的な整備方針を定める

都市計画法に基づいて酒田市が定める都市計画の一体性や、他の計画・施策との整合性・総合性を確保します。

【本市の現在の都市計画マスタープラン】

本市では、酒田都市計画と八幡都市計画において、それぞれ平成14年に策定しています。

今回、市域全体を包括するものとして一本化し、改定します。

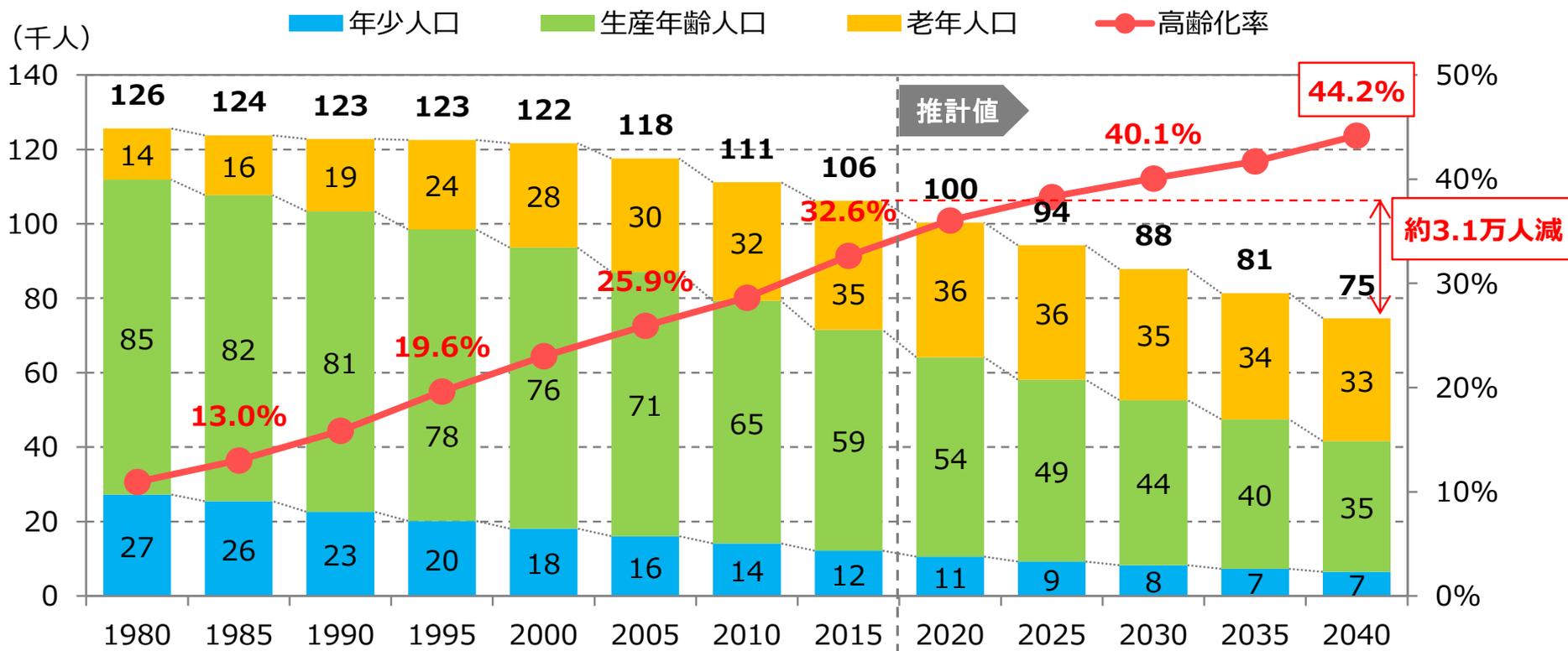


1. 策定の背景

(2) 社会状況の変化 ①急速な人口減少・高齢化

- 総人口は減少傾向にあり、2015年は約10.6万人です。
- 高齢化率は、32.6%と高く、急速に進展しています。
- 2040年には総人口が約3.1万人減少し、高齢化率も44%に達することが予測されます。

■ 年次別年齢区分別人口



※2005年以前は「酒田市」「八幡町」「松山町」「平田町」を合算した値

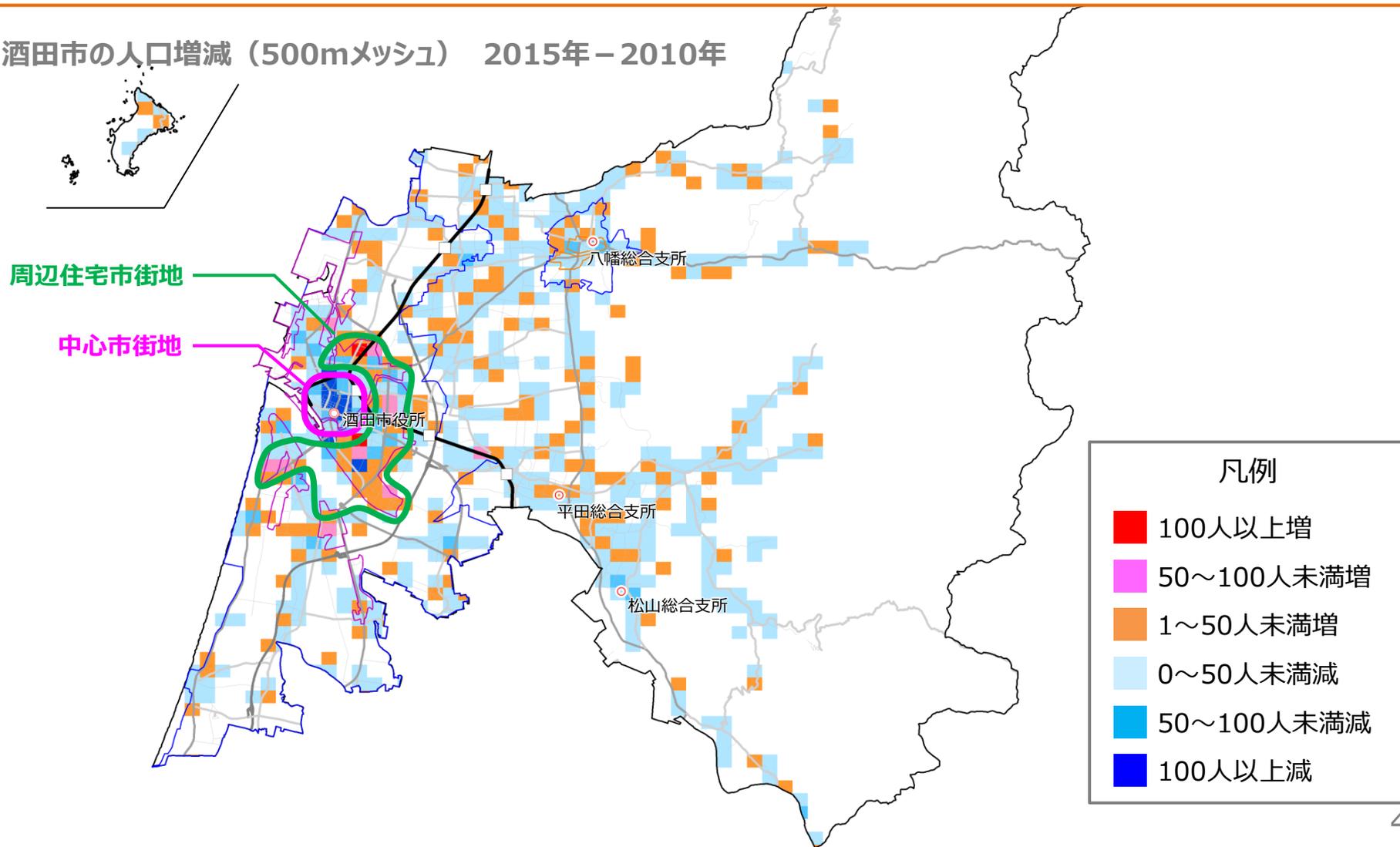
【資料】国勢調査（1980～2015年）、国立社会保障・人口問題研究所の推計値（2020～2040年）

1. 策定の背景

(2) 社会状況の変化 ②市街地人口の拡散・低密度化

- 人口分布は、中心市街地と郊外部・支所周辺は減少傾向にあります。
- 一方、中心市街地周辺の住宅市街地は増加傾向です。

■ 酒田市の人口増減（500mメッシュ） 2015年－2010年



1. 策定の背景

(3) 都市が抱える課題に対応したまちづくりの必要性

- 社会状況の変化等に対応した都市づくりが必要になっています。
- 持続可能な都市を目指すために、将来都市像と都市づくりの方針を定めます。

急速な人口減少・高齢化

■ 生活を支える機能の低下

- 医療、福祉、商業等の生活サービスの維持が困難に
- 公共交通ネットワークの縮小、サービス水準の低下

市街地人口の拡散・低密度化

■ 地域経済の衰退

- 産業の停滞、企業の撤退
- 中心市街地の衰退、低未利用地や空き店舗の増加

■ 厳しい財政状況

- 社会保障費の増加
- 老朽化インフラの対応

酒田市において、これらの課題がどのように発生しているのか、今後どう顕在化していくのかなどについて、把握・分析した上で、

持続可能な都市を目指すためにどうすればよいか考えることが必要

(=コンパクト+ネットワークの都市構造)

どんな都市を目指すか
(将来都市像)

都市計画で
どう実現するか

新制度の活用

都市計画以外の
取り組み

都市計画マスタープラン

立地適正化計画

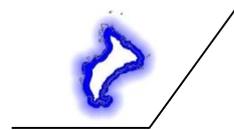
過疎地域自立
促進計画等

2. 計画の概要

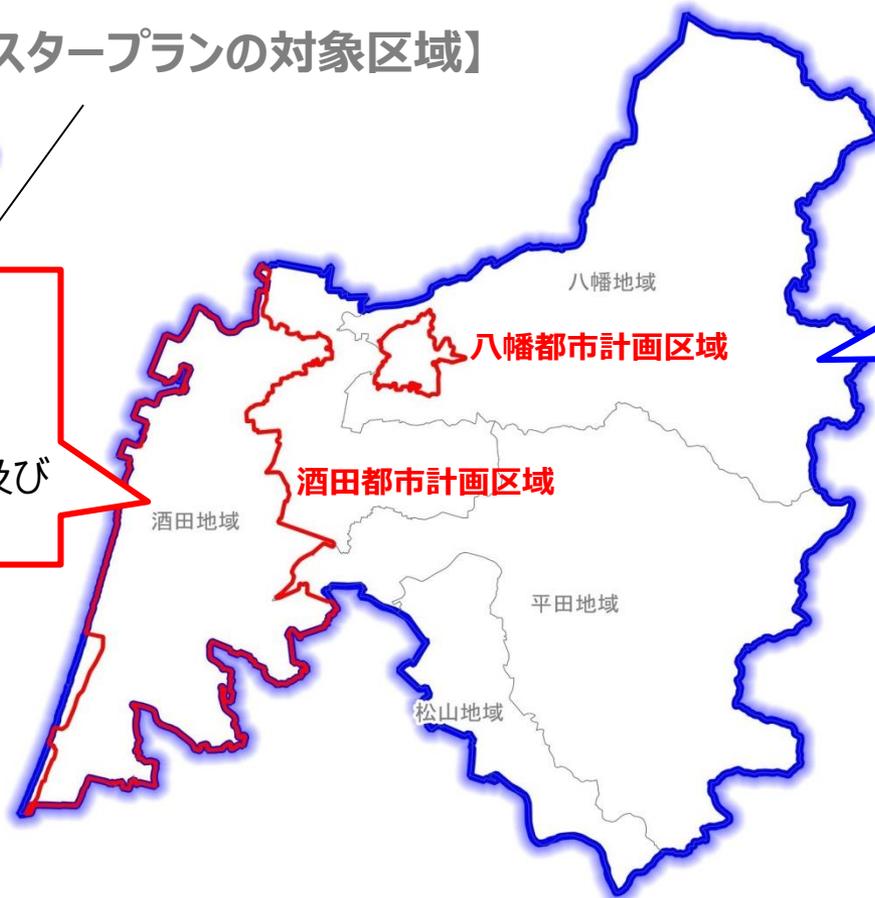
(1) 対象区域と目標年次

- 都市計画マスタープランは、土地利用や交通体系、景観形成など都市を構成する様々な要素について考慮して「酒田市が目指すべき将来都市像」を検討します。そのために、市域全体を俯瞰する意味合いから**酒田市全域を本計画の対象**としています。
- 市域全体を俯瞰したうえで、**都市計画区域における都市づくりの方針を定める**ものとなります。
- 目標年次は20年後の2039年とします。

【酒田市都市計画マスタープランの対象区域】



都市づくりの方針を
定める範囲
= 都市計画区域
(酒田都市計画区域及び
八幡都市計画区域)



酒田市が
目指すべき
将来都市像
を検討する
範囲
= 酒田市
全域

3. 酒田市の課題

(1) 課題及び解決の方向性

- 5つに整理した課題に対応するための、都市計画における解決の方向性を4点にまとめました。

課題①：人口減少による市街地の低密度化や厳しい財政状況に対応した都市づくりが必要

課題②：地区・場所によって大きく異なる人口変動や高齢化に対応した都市づくりが必要

課題③：市街地に集積する都市機能・既存ストックや酒田の優位性を活かした、地域・産業振興に資する都市づくりが必要

課題④：酒田・八幡・松山・平田の歴史・文化・自然等の魅力を活かし、交流と定住を促進する都市づくりが必要

課題⑤：酒田大火等の経験を踏まえた、災害に強い安全・安心な都市づくりが必要

持続可能な都市構造の形成

- 深刻化する人口減少や厳しい財政状況に対応するため、効率的で持続可能な都市構造の形成を目指す。

歩いて暮らせる魅力的な都市環境の形成

- 酒田の歴史・文化を感じながら、徒歩や公共交通を活用して暮らせるまちなか居住を目指す。

地域活力や交流を生み出す都市拠点の形成

- 中心市街地の拠点性の維持・向上、各地域の個性を活かしたまちづくりと生活を支える拠点の維持、そして、それぞれの拠点間をつなぐ交通軸の維持改善を目指す。

安全・安心で住み続けたい居住・自然環境の形成

- 自然と共生・交流し、誰もが安心して暮らせる安全・便利な都市づくりを目指す。

4. 酒田市都市計画マスタープランの骨子案

(1) 将来都市像及び基本ビジョン

- 将来都市像は、「交流・連携」＝「つながり」、市街地・郊外・中山間地の生活、歴史、自然の融合＝「調和」、新総合計画のめざすまちの姿を表す合言葉「～共に創る～」＝「共創」を盛り込み設定します。
- 都市づくりの課題とその解決の方向性を踏まえて、将来都市像の実現を図るために、3つの基本ビジョン（目標）を設定します。

■ 酒田市都市計画マスタープランにおける「将来都市像」

(仮)「つながりと調和が織り成す 共創のまち酒田」

■ 酒田市都市計画マスタープランにおける「基本ビジョン（目標）」

コンパクト都市

市街地の無秩序な開発を抑え、既存の市街地の有効活用を図ることにより、コンパクトで快適、安全、便利で持続的な市街地の形成を目指します。

交流都市

陸・海・空の広域交通機能を有効に活用するとともに、市内各所や庄内地域との繋がりを生み出し、生活を支え、賑わいと活力に満ちた都市を目指します。

田園・歴史文化都市

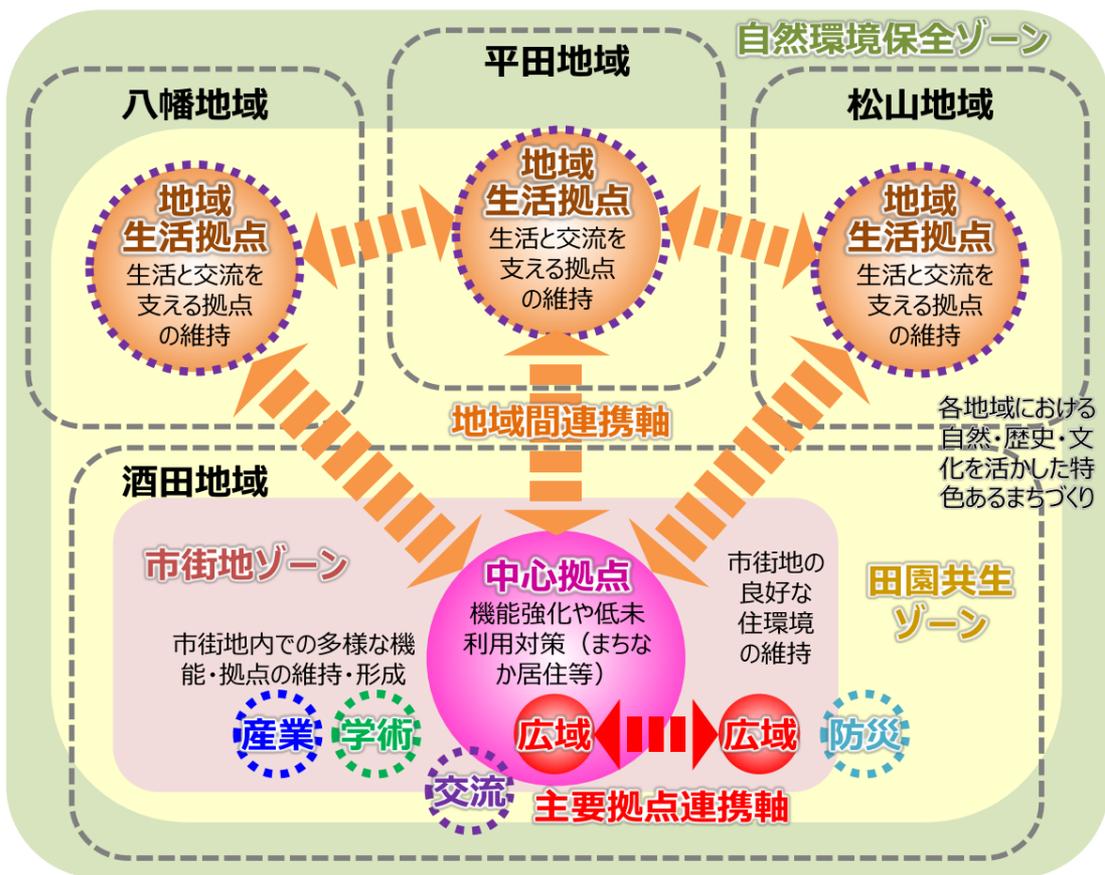
これまで培ってきた歴史・文化・自然を大切に、各地域の魅力ある自然・地勢や歴史的な建築物・資源などを活かして、自然豊かで歴史文化が薫る都市を目指します。

4. 酒田市都市計画マスタープランの骨子案

(2) 将来都市構造 (将来都市像を空間的・概念的に示すもの)

- 「将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方」を踏まえ、土地利用区分、拠点、ネットワークの3つの要素から将来都市構造を構成します。

(仮) 酒田版コンパクト+ネットワークの都市構造



- ① 中心拠点の機能強化と低未利用地対策
- ② 中心拠点を取り囲む住宅市街地の良好な住環境を保全 (コンパクトな市街地の維持)
- ③ 八幡・松山・平田における生活機能の維持、自然・歴史・文化を活かしたまちづくり
- ④ 地域間を結ぶネットワークの充実

人口が減少する中でも、都市活力の維持・向上を図りながら、誰もが住みやすい・住み続けられるまちの実現を目指す

※一極集中のコンパクトシティを目指すものではありません

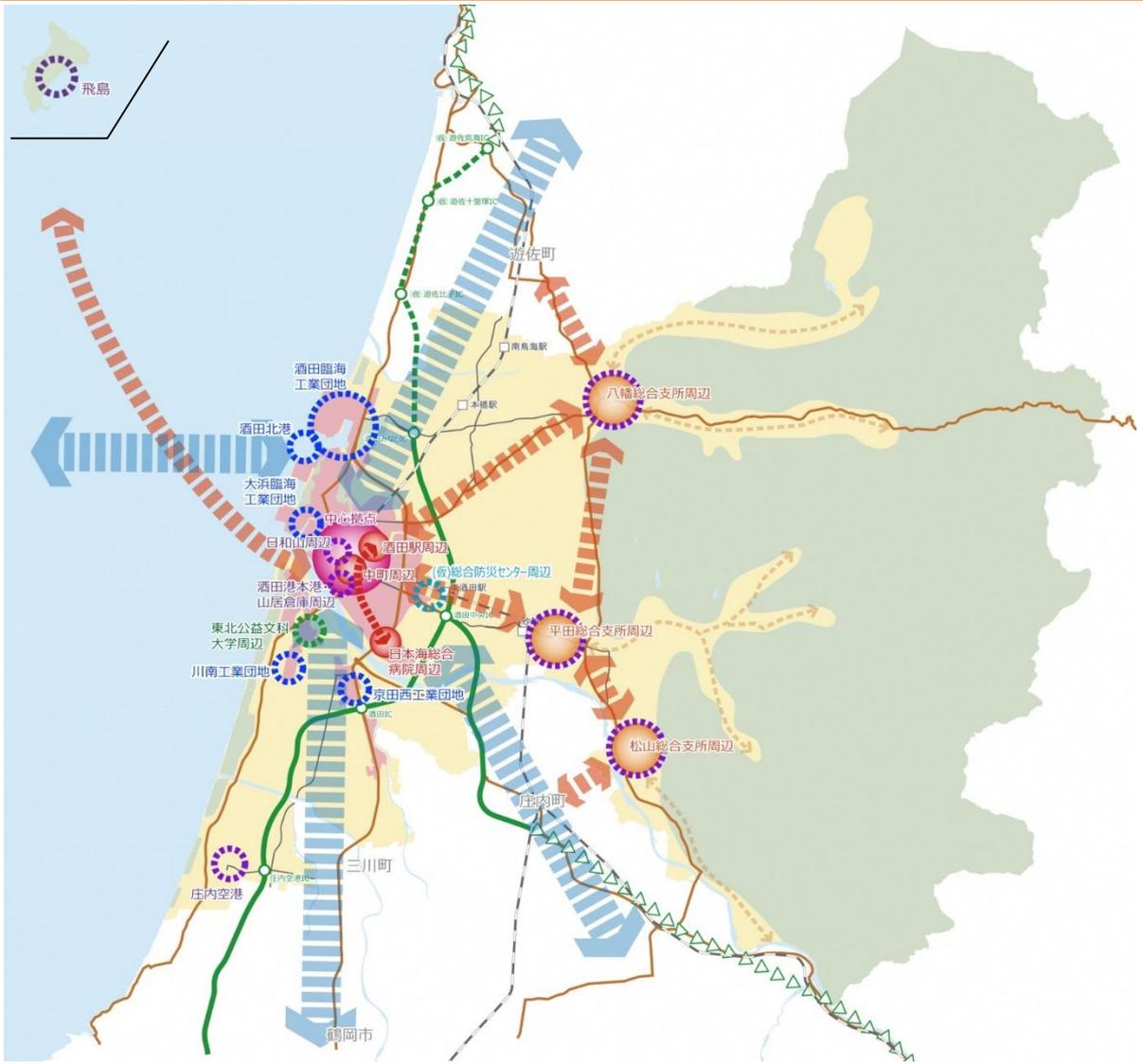
- ✓ 旧酒田市郊外部 (市街化調整区域等) や旧八幡町・旧松山町・旧平田町から酒田中心部に都市機能や住宅を集約するものではありません。

4. 酒田市都市計画マスタープランの骨子案

(3) 将来都市構造図

• 将来都市構造図は、前頁の概念図をイメージしやすいように地図に当てはめたものです。

土地利用区分		市街地ゾーン（都市地域）
		田園共生ゾーン（農山村地域）
		自然環境保全ゾーン（自然維持地域）
拠点		中心拠点
		広域的都市機能拠点
		地域生活拠点
		観光・交流拠点
		学術拠点
		産業・物流拠点
		防災拠点
都市軸（ネットワーク）		広域連携軸
		地域間連携軸
		主要拠点連携軸
		高規格幹線道路※
		一般国道
		主要地方道（県道）
		鉄道



※高速自動車国道及び一般国道の自動車専用道路